印鑰神社御由緒（いんにゃく）

御鎮座地　熊本県八代市鏡町鏡村一

御祭神　蘇我石川宿禰（そがのいしかわのすくね）（印鑰神社）　末社　粟島神社・弁天宮

例　祭　四月八日　春季大祭　八月八日　夏季大祭
四月二十九日　鮒取神事　三月三日　粟島神社大祭
（八代市指定無形民俗文財）　三月三日　弁天宮大祭

由緒記

武内宿禰の第三子である石川宿禰は筑紫の凶徒を鎮める為に下向し終りはこの地にて薨じたとか言われる。後鳥羽天皇の建久九年(一一九八年)肥後の国球磨の地頭職相良三郎長頼が弟の八郎為頼に八代の北三里「鏡ヶ池」の近くに神社を造営させ蘇我石川宿禰の分霊を祭神として鎮座して以来宿禰の徳を仰ぐ人々の崇神の所になったと伝えられている。

奈良時代肥後国八代郡に郡司があり律令制度の下八代地方の祖米が集められ郡倉に収納していた。役所には朝廷から渡された印と鑰(かぎ)があり平常は別殿に納められ大切に祀られていた。印鑰神社の[印鑰]とはその[印]と[鑰]のことである。

後に郡倉が廃止されその跡に建久九年当神社が造営され「印鑰」が神社の名称にもなった。印鑰神社の御祭神を石川宿禰としたのは宿禰が朝廷(履中天皇)の内蔵大蔵の管理者であったことに由来するものと考えられる。

「鮒取り神事」は石川宿禰が凶徒平定の為この地に来られた時悪天候で海が荒れ魚が捕れず地元の若者が「鏡ヶ池」に飛び込み鮒を献上し石川宿禰をもてなしたと言う故事にならい毎年四月二十九日褌一つの若者が池に飛び込み手づかみに鮒を捕り御神前に供え見物人にも投げ上げる行事は今日も賑わいを伝え継いでいる。